

## 従来にない！表層的なチェックにとどまらず対応全体を訓練する危機事態発生時の模擬記者会見

# [ クライシス・メディア・トレーニング ]

危機事態に陥った企業・団体が記者会見やインタビューの失敗によって、事態をさらに悪化させてしまうケースが多く見受けられます。

企業・団体にとって、報道機関延いては一般社会に対して説明責任を果たすことは社会的な責任と言えますが、それを自覚し虚偽・隠蔽なく真摯に応じるつもりがあっても、実際、思うように伝わらないというのが実情です。

これは、特殊な状況下、初期対応の遅れや事実確認・原因究明が十分でないままの判断・公表、ステークホルダーへの配慮の偏り・・・等々、当事者に帰する要因がある一方、日頃接点が少ない社会部や週刊誌などのメディア特性を知らないために生じていることも多いようです。

報道機関は社会の公器ではありますが、危機事態の場面では往々にして追求調・詰問調で迫り、辛辣な質問によって相手を故意に感情的にさせてコメント・情報を引き出そうとし、締め切り時間から答えを性急に迫り、それに応じないと隠蔽と捉えがちといった一面もあります。

これを予め経験し知っておくことは、“いざの際”に大きな違いとなってあらわれます。

また、そうした記者会見の場面に限った表層的な部分に留意したとしても、中身そのもの、即ち本質的な面での対応に誤りや不備があれば、結局、記者会見自体も失敗に至りますので、事態対応全体の良し悪しが重要であることは言うまでもありません。

## 特長 その1 メディア対応に偏らないクライシスマネジメントの実務経験が活かされたシナリオ

**従来のメディアトレーニング** バブリシティを主要業務としているせいか、メディア対応を偏重し、他のステークホルダー対応や事態そのものへの対応など、より踏み込んだ実務の経験が十分でないために、シナリオがあまり練られていないことが多いようです。

**実際の記者会見** 各方面の様々な要素が絡み合った複雑な状況下で執行行われるものです。

**ΣPRのメディアトレーニング** メディア対応に偏らないクライシスマネジメント全体の多種多様な実務経験がシナリオに活かされています。たとえば、単純に見える事故などの場合でも、対応ミスが犯しがちな“落とし穴”が用意されています。



**これまでの実務経験**  
商標権侵害／特許権侵害／意匠権侵害／印税過少申告／リコール／誤報被害／ネット風評被害／BSE問題による経営ダメージ／元従業員のカルト教団代表就任／偏差値採用問題／カルテル違反／特商法違反／景表法違反／リサイクル法違反／薬事法違反／酒税法違反／無認可添加物／毒物混入恐喝／劇薬混入事件／詐欺／横領／背任／殺人／自殺未遂／覚醒剤使用／強姦／盗撮／個人情報不正使用／遺伝子組替え種子混入／船舶死亡事故／食中毒／個人情報漏洩 …… etc.

## 特長 その2 錯綜した情報 ~ リアリティある状況設定



**従来のメディアトレーニング** 全てお膳立てして実施することが多いようです。

**実際の記者会見** 当事者が把握していない情報を記者が周辺取材で入手していることがあるものです。

**ΣPRのメディアトレーニング** 当事者側と記者役側にシナリオの全容を示しません。社内・行政・捜査機関・取引先・顧客・被害者など各方面からの情報をそれぞれ同一でないかたちで部分的にお渡しし、当日ガチンコで相対するという現実に近い状況を設定して実施します。これにより、極めてリアリティのある訓練となります。

## 特長 その3 記者会見時のみの表層的なチェックにとどまらない対応全体の本質的な診断

**従来のメディアトレーニング** 受け答えや態度などのベカラス集的で表層的なチェックに留まっていることが多いようです。

**実際の記者会見** 当事者が事態にどのように対応しているかが厳しく問われるものです。

**ΣPRのメディアトレーニング** 当事者側が確認した情報（弊社から提供された情報）に基づき、事態への具体的対応の検討や発表資料、想定問答集等の準備を事前に行いますので、単に記者会見時だけの表層的なチェックに留まらず、事前の準備も含む対応全体の本質的な診断を受けることができます。

- 初期対応
  - 事実確認
  - 基本方針策定
  - 対策本部設置
  - 原因究明
  - リーガルチェック
  - 事態対策
  - ステークホルダー対応
  - 再発防止策
  - 責任所在・引責
  - 統一見解
- ● 発表資料  
● 想定問答集

## マスコミ出身者による本番さながらの厳しい質疑応答

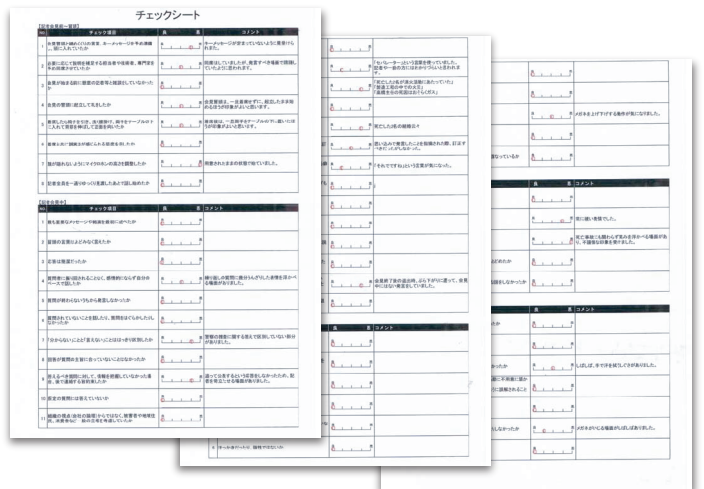
記者役は、新聞社会部、テレビ社会部、雑誌などの出身者が担いますので、マスコミ特有の追及調、詰問調、矢継ぎ早の質問、ひっかけ質問、故意に感情的にさせて本音コメントを引き出す質問など、本番さながらの厳しい質疑応答を体験することができます。



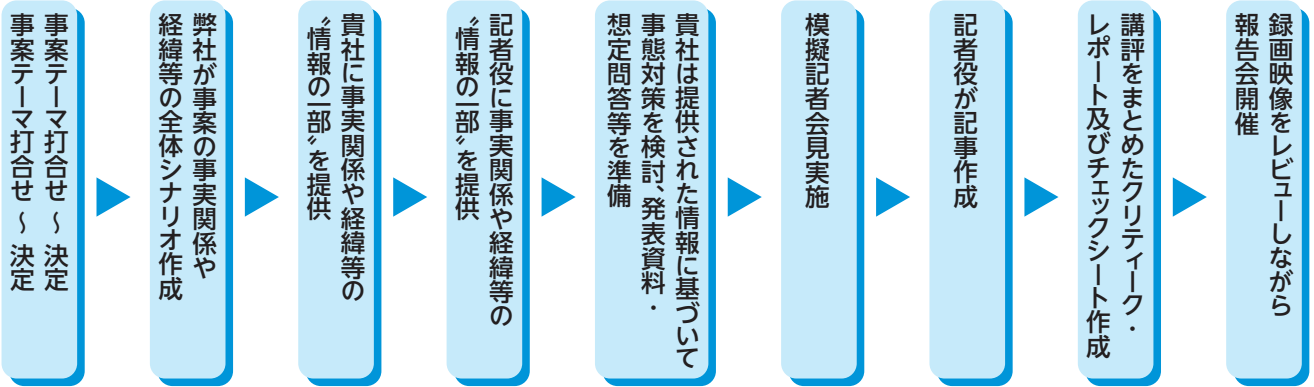
## 50以上に及ぶチェック項目に沿って評価

応答内容・話し方・姿勢・動作・表情・身だしなみなど50以上のチェック項目に沿って評価します。

※従来のメディアトレーニングはこれをメインとしていますが、ΣPRではクリティーク・レポートに添付する補足的なものとしています。



## 基本的な進め方



## オプション 豊富な講師陣による各種セミナー

### ■ 危機管理広報の実務経験がある大学教授による基礎講座

藤江俊彦

◎千葉商科大学政策情報学部・大学院同研究教授  
広報&IR・危機管理・CSR等を専攻

◎「現代の広報－戦略と実際」「実践・危機管理読本」  
「ソーシャル・マネジメントの時代」  
「価値創造のIR戦略」「はじめて学ぶマスコミ論」  
「広報PR&IR辞典」等 著書多数



### ■ 新聞社会部などメディア出身者による講座

◎朝日・読売・毎日・共同通信など新聞社会部出身者

◎テレビ局社会部出身者

### ■ ケーススタディ講座

菊地岳彦

◎株式会社シグマ・パブリックリレーションズ代表取締役

◎PR会社、危機管理会社において

危機事態に対応する多種多様なクライスマネジメントを経験

※ 平時におけるトレーニングだけでなく、記者会見が眼前に迫った有事の際のトレーニングも承ります。また、事態対応全体のクライスマネジメントのご支援もいたします。

料 金 60万円～



株式会社 シグマ・パブリックリレーションズ

〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎1-13-14

TEL ▶ 044-888-2697 E-mail ▶ info@sigma-pr.com

URL ▶ https://sigma-pr.com

パートナー